

9月9日は「救急の日」



厚生労働省により、救急医療及び救急業務に対する国民の正しい理解と認識を深め、救急医療関係者の意識の高揚を図ることを目的に1982年に定められ、以来、毎年9月9日を「救急の日」とし、この日を含む1週間（日曜日から土曜日まで）を「救急医療週間」としています。

出動件数と費用

2021年度の救急車要請件数

619万 3,663 件

急病 : 65.5%

交通事故 : 6.0%

一般負傷 : 15.6%

転院搬送 : 8.4%

その他 : 4.6%

搬送人員は 549 万 1,469 人

救急車の出動件数は、過去10年間は、常に500万件以上を推移しており、今後も増加傾向の見込みとも言われています。

費用は、すべて税金によって賄われているため、国内にいる誰でも無料で使用できます。しかし、**1件**の出動にかかる費用は、**約4万5千円**と言われており、2021年度に掛かった費用は、**約2千787億円**以上にも及びます。

現在、出動費用の有料化などに関する議論が行われています。これは、年間に掛かるこの莫大な費用も要因のひとつとなっています。救急車の要請は、必要な人が、必要な時に医療を迅速に受けることを、常に可能な状態とするために、適正な使用を心がけていく必要があります。



救急車の要請を必要とする状態

◎意識障害

- ・意識がない、またはもうろうとしている（呼びかけに反応しない、またはにぶい）
- ・ぐったりしている

◎けいれん

- ・けいれんが止まらない
- ・けいれんが止まっても、意識が戻らない

◎けが・やけど

- ・大量の出血を伴うけが
- ・広範囲のやけど



◎飲み込み

- ・物をのどに詰まらせて、呼吸が苦しい、意識がない

◎吐き気

- ・冷や汗を伴うような強い吐き気



◎事故

- ・交通事故にあった（強い衝撃を受けた）
- ・水に溺れている
- ・高い場所からの転落



◎じんましん

- ・全身に蕁麻疹が出て顔色が悪くなった

救急車を呼ぶか判断に困ったとき

全国版救急受診アプリ「Q助（きゅーすけ）」

症状の緊急度を素早く判断するために、消防庁が提供しているアプリです。当てはまる症状を画面上で選択していくと、緊急度の目安がわかり、必要な対応が表示されます。緊急度が高いと判定された場合は、アプリから119番に電話できます。



救急安心センター事業「#7119」

判断に迷った時に用いる電話相談窓口です。電話相談には看護師等の資格を持つ相談員が対応し、病気やケガの症状を把握して、緊急性や救急車要請の要否について助言をしてくれます。

緊急性が高い場合には、119番に電話を転送するなどして、救急車の要請を支援してくれます。そのほか、診察が可能な医療機関の電話番号を教えてくれる医療機関案内や症状に応じた応急手当方法のアドバイスをしてくれます。

